

## 第3 分科会

### 「生徒指導とPTA」

発表県 山梨県  
発表校 山梨県立都留高等学校  
発表者 PTA会長 中村 真一  
発表テーマ 「生徒との意見交換会」

#### 1 はじめに



百二十余年の歴史と伝統を持つ都留高校は、これまで県内外を問わず、政財界に多数の優秀な人材を輩出してきた。校訓は「質実剛健・自学進取」であり、教育方針も「誠実な心と健康な身体を持ち、学に励み克己に努める、心身ともにたくましくしなやかな生徒を育成する」と謳われている。

高校のある大月は東京圏へのアクセスがよく、保護者の中には東京の企業へ通勤している方も多い。生徒のちょっとした買い物も甲府へ出向くよりはむしろ、八王子、立川方面へ向かう。教職員の中には東京都に居を構える者もいる。山梨にありながら目は東京に向いており、洗練された文化度の高さや自主性を重んじた校風も東京圏にあることと無関係ではないように思われる。

J R 大月駅から徒歩数分、富士急行上大月駅は学校のすぐ隣にあり、大月・都留にとどまらず広く生徒を確保できる一方で、他地域への生徒の流出もあり、交通の利便性の良さはまさしく諸刃の剣ともなっている。少子化・過疎化の影響で生徒数の減少が予想される昨今、都留高校も生き残りをかけ、伝統校として地域の期待に応えていかなければならない。

目指す生徒像は地域の(集団の)リーダーとなって活躍できる人材の輩出である。素直で真面

目な生徒が多く生徒指導上、手のかからない生徒達ばかりであるが、一方でここ数年、「自学進取」の気概に欠ける受け身の姿勢が目立ってきた。「自学研鑽室」という自習室の利用や、学園祭等各種行事の生徒の自主的な取り組みには、自由で自主性を重んじた校風も部分的(個人的)に見られはする。しかし今後は、それを学校全体へと広げ、高めていかなければならず、PTAとしてもそこにどう関わっていけるかが課題となっている。

#### 2 本校のPTA活動

過去には校内強歩大会が実施され、そこでの安全指導・給水補助等がPTA活動の大きな柱となっていた。しかし、強歩大会が取りやめとなり、それに代わる体育祭の給水補助活動、地域の祭典の巡回等も、コロナ禍の中で中止を余儀なくされている。以前から行っている活動の中で、昨年度継続・実施されたのは、マナーアップ運動への参加とフードドライブへの協力である。



山梨県は、自分や他者の生き方や存在を認め合い、自他を敬愛する「しなやかな心の育成プロジェクト」に取り組んでいる。事業の一環として取り組んでいる「マナーアップ運動」は、県下一斉に

年間5回実施される。都留高校は生徒の80%が電車通学をしている。参加保護者はJR大月駅、富士急行上大月駅前でのあいさつ勵行、マナー向上の呼びかけ、また、大月市内交差点での交通安全指導等行った。保護者を前に、幾分緊張気味の通学生徒も、笑顔でことばをかける保護者に触発され、明るく爽やかなあいさつを交わしていた。



食品ロスを福祉に役立てるフードドライブの活動も全国的な広がりとなってきた。都留高校でも年2回、家庭で遊休品となっている食品の回収を行い、福祉施設への提供をしている。朝の通勤途中に学校へ立ち寄り、食品提供に協力する保護者もいる。PTAとしては、回収された食品の福祉施設への運搬等に協力している。昨年度は30品目、141kgの食品提供があった。今後は回収時期や方法等工夫し、どうすれば活動の輪が広げられるか考えていきたい。



### 3 都留高探究プロジェクト（通称「つる探」）

都留高校はH29・H30の2カ年にわたり、県からの指定を受け、生徒指導研究推進校として「生

徒の社会性や人間関係能力を高めるための指導のあり方」について研究実践を行った。この研究の中心的活動に据えたのが、H27に立ち上げ、ようやく軌道に乗ってきた、「都留高探究プロジェクト」（通称「つる探」）である。



「楽しく身体を動かそう」（体育）大月東小学校にて

「つる探」は座学のみならず、地域において様々な実践・体験を行うことで、生徒が自ら設定したテーマに対し、探究を深めるという試みである。その成果をまとめ、発表するまでの一連の過程を通じ、各自が課題解決力、コミュニケーション力、プレゼン力を涵養するとともに、地域を知り、連携を深め、その活性化に寄与することを主な目的としている。



カテゴリー別発表会の様子

都留高校は、H17～H26にかけて、SSH指定校としての、また、地域活性化への取組における過去の経験と実績から、生徒は、主体的に考え、他との繋がりのなかで行動・実践することこそ、本来のポテンシャルを發揮し、自立に向かって成長できるという手応えを得てきた。そこで、

これまで「希望者・代表者」中心であった取組を、1.2年次生全員へと拡大し、一人一人が地域と関わり、社会貢献、自己実現を果たす機会を得ることで、先述の、失われつつある自主性の回復、人間力の獲得を目指したのである。「総合的な探究の時間」を中心的な活動の場としながらも、放課後や休日、年2回の研究推進期間等利用しながら、探究活動は進められている。

2~5人程度から成るグループに分かれて、自らの興味、関心に基づいて設定したテーマは多岐にわたる。「駅前商店街~高校生が考える地域活性化」「バンクシーから学ぶ芸術の力」「脱スマホ計画」「錯覚の多様性」…など。多種多様な研究の中に、昨年度は世代間ギャップについて研究したグループがあり、ここでの研究が「学校評議員と高校生徒の意見交換会」へつながっていく。

#### 4 世代間ギャップ研究班の取り組み

「生徒と保護者の考え方、立場の違いを理解し、認め合い、前向きの一步を踏み出そうと思ったから」世代間ギャップ研究班のテーマ設定理由である。以下世代間ギャップ研究班の研究考察結果を一部抜粋する。

##### 研究テーマ：

##### 都留高生は「親の心子知らずなのか」

###### 子供への教育で特に重視しているものは何か？



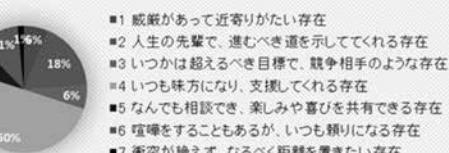
###### 親のおかげで身についたと思うものは何か？



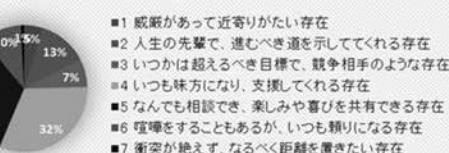
親が人との付き合い方や挨拶、物事の考え方など、人としての在り方を重視したしつけをし

ているのに対し、親のおかげで金銭感覚が身についたと答える生徒が多いのが面白い。現代の若者は、教えられ、身につけていくというよりも、敏感に感じ取る気質なのかもしれない。世代間ギャップが叫ばれて久しい。「最近の若い者は…」という枕詞に、いつしか私たちも、慣れっこになってしまっている。父母の世代も祖父母の世代から同じことを言われたはずだ。

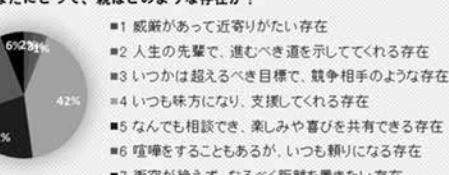
###### 自分が子供だった頃、親はどのような存在だったか？



###### 子どもにとって、どのような親でありたいか？



###### あなたにとって、親はどのような存在か？



家父長制の中で、祖父母世代から厳しく教育された親世代は、私たち若者世代に、むしろ対等な立場から接してくれている。「喧嘩をするほど仲がいい」とはよく言ったもので、現代の親子関係に価値観の違いこそあれ、溝のようなものはなく、むしろフレンドリーであるがゆえに、その裏返しとして口ごたえもしてしまうのだろう。

#### 5 学校評議員と高校生徒の意見交換会

世代間ギャップ研究班の問題意識は、今後の学校運営に資する企画を検討していた学校側の思いとも合致し、意見交換会という形で実を結ぶこととなる。「学校評議員と高校生徒の意見交換会」にはPTA女性部長も参加した。

意見交換会当日の具体的なテーマは3つ、(1)進路選択・将来設計について、(2)世代間(親・自分・子)の相違について、(3)地域の将来像について、である。校長がファシリテーターとして会を進行したが、活発な意見交換がなされ、終了後も会場に残り、話し込む姿が印象的であった。参加者からも肯定的な意見が相続いだ。以下は参加した生徒、評議員の感想である。



### ～生徒感想～

- ・最近の若者はよく勉強しているし力もある、しかし、挑戦しないと言われ、もっと自信を持つべきだと思った。「あえて苦手なものに挑戦」ということばは、今まで嫌いなものから逃げていた自分にとってとても心に残った。失敗を恐れずにポジティブな気持ちで挑戦したい。
- ・「今どきの若いものは…」と考えていると思っていたので、「優秀」「知識が豊富」といった声は意外でした。一部の人が言う悪いイメージばかりが、世間には浸透しているのだなと感じました。自分の思っている以上に大人や親たちは私たちのことを考えてくれているのだなあと知りました。
- ・若者は集団で集まることが多いと思っていたが、評議員の方から「1人でいることが多い」と言われそういう見方もあるのかと思った。昔の人は家業を継ぐことをまず考えるということが今とは大きく違う。現在は自分で比較的自由な進路選択ができる、幸せな環境にあると思うし、その環境に感謝しないといけない。勉強する環境も整っているのでしっかり生かしたい。
- ・肩書きを見て、堅い人のイメージがあったが、進路の話など自分と似ているところがあった。大

人に向けて自分の意見を言うことに緊張したが、良い経験になった。これから社会を変えていくのは自分たちの世代なので、今回聞いたことを糧に成長していきたい。

- ・一緒に参加したメンバーは親の仕事を見たことがあると言っていたので、自分も機会があれば見てみたいと思った。そして、進路を決めるために、もっと職業に触れる機会を増やそうと思った。
- ・私は高校卒業後、皆自分の目標に向かって一直線に進んでいくものだと思っていたが、評議員の方々の話を聞くと、何度も挫折して自分のなりたい職業に就いている人がいたり、自分のなりたい職業とは全く違う職業に就いている人がいたりすることを知り、今からでも自分の目標に向かって取り組めばなりたい職業に就けることを知れてよかったです。



### ～評議員感想～

- ・自分の子供以外の高校生の意見を聞いて、今の高校生の考え方や、様子がわかってとても良い機会でした。
- ・進路に悩んでいる生徒の思いに触れ、やはり、我々が大人の役割を果たせていないことを実感しました。心を動かされる経験をした生徒、そういう経験がない生徒。我々が様々な場を提供して、どんな生徒にも平等に経験させてあげることが大事だと思いました。
- ・主体的な意見を持つ子や、自分の将来を考え、進路を決めている子など、生徒の質の高さにとても感心しました。常日頃の先生の指導に頭が下がります。先生と生徒の会話からも、良い関係が築かれている学校の様子を見させてもらい

ました。職業人として二つ気づいた意見を申します。近年、世の中は劇的に変化しています。それに対応するため、企業も変化し、求める人材も変わっています。たとえば、エンジニアに英語やコミュニケーション能力が求められ、あるIT企業はプログラマーを文系の生徒しか採用しないなど。昔とだいぶ変化していて、理系や文系といった学校の定義は、社会ではこだわりが無くなっている方向に進んでいます。現代の社会や企業では、どんな力量の人材が必要なのか、もう少し知識を得る機会はあった方がいいと思いました。それと、業種を選ぶ（考える）前に、その仕事を通して、誰を幸せにしたいのかを考えるべきで、その視点で業種や企業を調査すると、企業の理念や事業の目的、社会的意義など、少し違う方向から業種や企業を見るすることができます。



・母親の気持ちを話し過ぎてしまい、高校生にとっては耳の痛い話があったかもしれません。今の都留高生の学ぶ様子や、教育環境を知ることができました。高校生と話す機会があったことで、今の高校生はこんな感じなんだと漠然ですがわかりました。しっかりした考えをもって日々頑張っているのだと感じ、これからも見守っていきたいと思いました。

## 6 終わりに

学校行事の精選や、コロナ対応としての人と人の接触機会を減らす動きの中で、PTA活動をいかに継続発展させていくかということは、頭の痛い問題となっている。「普段見られない生徒の活動の様子を見たい」という一部保護者の要望があ

る一方で、それをいつ、どのような形でなら実現させられるのか、それが都留高校、とりわけ生徒や教職員のためになるのか、そもそも保護者はどのような形で、どの程度まで学校教育活動に関与していいのか、またするべきなのか…。親と子供の距離感同様、保護者と学校との距離感も難しい時代になってきた。PTA活動について本質的な問い合わせがされ、その答えはすぐには、見つからない難しさがある。しかし、であればこそ私たちは原点に立ち戻るべきなのかもしれない。今まで通り背中で物言う保護者がいてもいい。しかし、世代間ギャップ研究班が指摘した通り、「意外と話せる保護者」や「自分たちと同じ悩みを抱え、同じ失敗もしてきた保護者」から、とことん話を聞くのもいいのではないかと感ずる。コロナ禍にあって、PTA活動も様々な制約下にあるが、過日の「意見交換会」のような、「地に足のついた取り組みと、その共有」こそがPTA活動の望ましい姿であると確信する。

同じく世代間ギャップ研究班の、注目すべきアンケート結果を掲載し筆をおくことにする。

